

【吉見建設、太陽光発電投資の魅力について】

話し手 小片賢幸（吉見建設 再生エネ事業部長）

聞き手 中沢沙理（ミス・ユニバース・ジャパン2016）



【テーマ：太陽光発電への投資とは？】

小片：それではまず初め太陽光発電への投資がなぜ魅力的なのかを、簡単にお話したいと思います。

中沢：投資についてはほんとうに素人なので、よろしくお願いします。

小片：はじめに”投資の魅力とリスク”についてお話します。次に”いろいろな投資の中でも、なぜ太陽光発電への投資がお勧めなのか”についてお話します。

中沢：実は「投資」という言葉も漠然としているのですが、太陽光発電も投資の対象になるのですね。

—投資の魅力—

小片：まず最初に投資のご説明をするのですが、中沢さん、銀行口座はお持ちですね。

中沢：はい。

小片：銀行に預金すると利息が付きますが、1年預けても0.01%しか金利がつかない時代です。例えば10年間、銀行口座にお金を預け続けた場合と、それに対して利回り5%の商品への投資を行った時と、10年後にどれくらい違うのかを下の表にまとめてあります。

300万円を仮に現在の銀行金利（0.01%）で10年口座に置きっぱなしの場合、3,003,001円。10年でも3000円しか増えません。

中沢：え、そんなに少ないんですか？

小片：ですが10年間、投資を毎年5%で運用できた場合は10年後に4,886,683円となって、かなり大きく差がついてしまうんです。

中沢：全然違うんですね...



- ・ 300万円を銀行預金に10年間
金利0.01% 複利 →3,003,001円
- ・ 300万円を投資して年5%で10年間運用した場合
利回り5% 複利 →4,886,683円

2016年6月時点で、メガバンク
(三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、みずほ銀行、ゆうちょ銀行)で0.01% (1年定期)

—投資のリスク—

小片：投資をするとお金が増えるので”したほうが特はしますよ”と言えるのですが、当然、リスクも有ります。銀行に預金しておけば基本お金が無くなってしまふことはないのですが、太陽光に限らず、投資をすると1000万円のものにその価値がなくなってしまふリスク（元本割れ）もあって、まず前提としてその判断は自分でしていく必要があります。

中沢：増えるけど、無くなる可能性もある、ということですね。

小片：我々がこの利益とリスクと両方比べた上で、太陽光発電が良い投資案件でありますよ、というのがお伝えしたいところです。



—なぜ太陽光発電がオススメか—

小片：投資というと、どのようなものが思い浮かびますか？

中沢：よく聞くのが、株とか不動産の購入でしょうか。

小片：そうですね。株式や不動産への投資、それと我々が取扱いをしている太陽光発電所と、この3つのメリットとデメリットを比べてみましょう。

中沢：株、不動産、太陽光発電の3つですね。

小片：まず株式に関しては、儲かるポイントとして買った値段より値上がりする分（値上がり益）に加えて毎年の配当があります。逆に値下がりしたり予定していたより配当が下回って損をしてしまう、最悪の場合は、会社が倒産して投資した分が0円になってしまう可能性があります。

中沢：投資した分が0になってしまうんですね。最近だと日経平均が下がったであるとかニュースでよく見ますし...

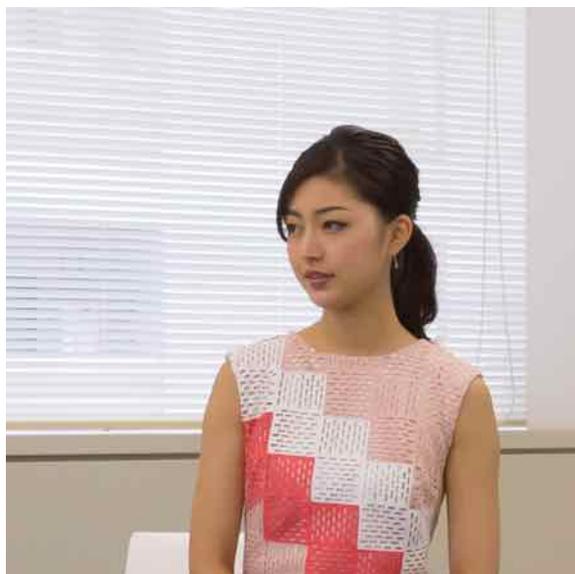


小片：もう一方で最近増えているのが、マンションを買って売ったり貸したりという「マンション投資」です。5000万で買ったのが8000万で売れたというような値上がりの利益だったり、誰かに貸した場合は毎月の家賃収入が入ってきます。

ですが、マンションの建物自体の値段が下がったり、入居者の引っ越しが重なるタイミングで空室になってしまって賃料収入が無い時期があったり、賃料の入金が遅れたりというリスクもあり、最悪の場合、マンションが倒壊したり、雨漏りしたりの可能性もあります。

中沢：マンションの大家さんも景気に左右されて大変なんですね...

小片：利益とリスクと、本当に最悪のときどうなるのかを比べた上で、その中でも太陽光発電への投資がいいという所をお伝えしたいのですが、当然太陽光発電にも魅力的なところとリスクがあります。



—それでも太陽光発電投資の優れている点—

小片：太陽光発電所が発電すると毎月売電収入というものが入ってきます。電気を電力会社を買ってくれるので、毎月入金があって安定しているのですが、1番大きなリスクとして、天気が悪い月が続くと当然その間売電収入が減ってしまうというリスクはあります。

中沢：太陽が照らないと発電しない、ってことですね...

小片：当然、天気が悪いときがあるというリスクはあるけどそれ以外、例えば①電気の値下がりについても買取の価格は国の制度で20年間守られているし（固定価格買取制度）、②相手が電力会社なので支払いが滞る可能性も殆どない、その意味でマンション投資や株式投資に心配されるリスクが考えにくいのが太陽光発電投資の優れている点としてお伝えしたいところです。

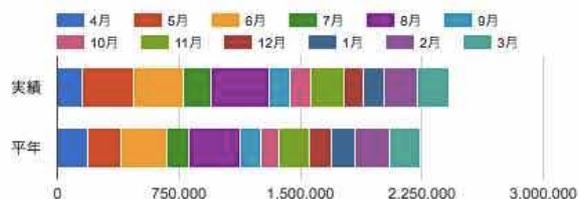
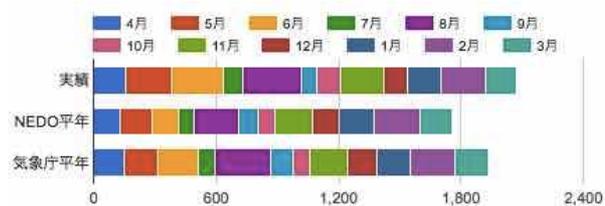
中沢：なるほど、少し理解できてきました。

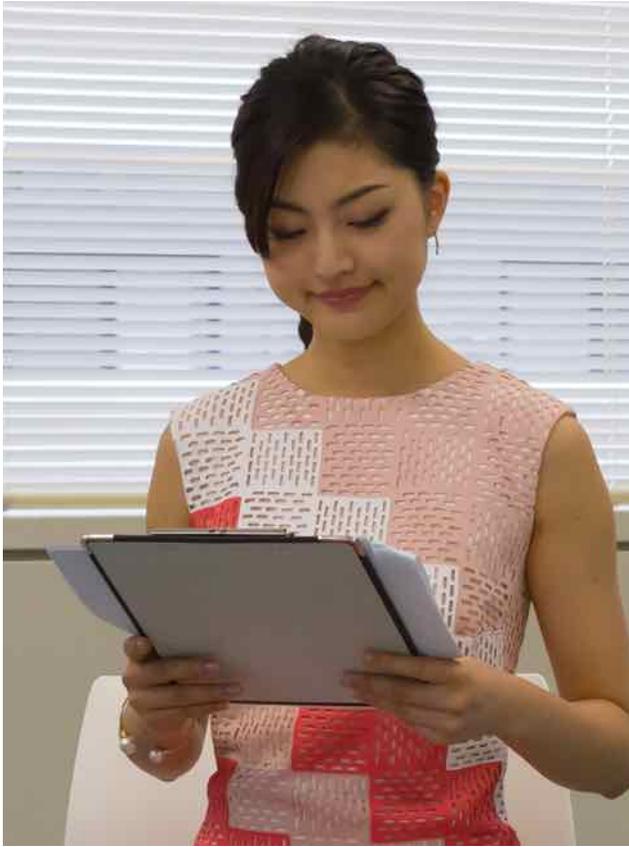


—発電所の昨年の実績—

小片：この次のコーナーでお客様からお話を聴きますが、その前に、実際我々が作ってお客様にお売りした発電所の実績についてご説明します。上が1年間の日照時間（気象庁がまとめている平年日照時間）、下のほうが実際にどれくらい発電して東京電力に買ってもらえたか、というグラフです。

中沢：1年間の比較ですね。





小片：実際、日照は平均的な年よりも好調で、発電所を買って頂いたお客様も喜んでくれたという1年でした。売電金額を見ていただくと平年値よりも実績値が上回って、トータルで238万4386円が入金されます。だいたいこの規模の発電所は2000万-2300万でお売りしているので、1年に投資した金額の10%が帰ってくる、それが20年続くと考えると、余りリスクのない投資なのかな、と言えるでしょう。

中沢：1年で10%となると、10年で元が取れてしまうということですね...

小片：安定してこれくらいの額で売電していき、毎年維持にかかる費用は賃料と見回り代くらいですので、入ってくる売電収入からそれらを差引くと、仮に現金で買ったとすると手元に20年後、3000万-3500万残る計算になります。この間マンション投資や株式投資のリスク（空室、賃料滞納、値下がり）と関係なく、ほぼ計画通りに行けそうなのが、太陽光発電所投資の特徴となります。

それではお客様にご登場いただき、実際の購入の経緯についてお話を伺っていきましょう。



- 300万円を銀行預金に10年間
金利0.01% 複利 →3,003,001円
- 300万円を投資して年5%で10年間運用した場合
利回り5% 複利 →4,886,683円

2016年6月時点で、メガバンク
(三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行、
みずほ銀行、ゆうちょ銀行) で0.01% (1年定期)

